

四旬節第三主日 2020.3.15

## サマリアの女

ヨハネ福音書 4章 5-42 節

(そのとき、イエスは、) ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に来られた。そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。

サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」女は言った。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」

イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われると、女は答えて、「わたしには夫はいません」と言った。イエスは言われた。

「『夫はいません』とは、まさにそのとおりだ。あなたには五人の夫がいた

が、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」女は言った。「主よ、」「あなたは預言者だとお見受けします。わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」女が言った。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」

ちょうどそのとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話をしておられるのに驚いた。しかし、「何か御用ですか」とか、「何をこの人と話しておられるのですか」と言う者はいなかった。女は、水がめをそこに置いたまま町に行き、人々に言った。「さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。」人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。

さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるように頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。そして、更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたち

は自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」

## 説教

福音書にはサマリア人に関するエピソードは、ルカに3つ、ヨハネに1つと合計4つあります。「善きサマリア人」ルカ 10.30-36「サマリアの女」ヨハネ 4.1-30がとくによく知られています。また聖書を通じてイエスがキリストだと名乗っているのはヨハネ4章だけです。その意味でもきょうの朗読箇所は重要です。

**イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」**ヨハネ 4:26

イエスとの水をめぐる問答からこの言葉を引き出したサマリアの女はただものではないようです。彼女もまた霊の人だったのかもしれませんが。

**イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。」**ヨハネ4:21-22

イエスはサマリアの女に「私を信じなさい」といい、礼拝場所はエルサレムでもこの山（ゲリジム山）でもない場所となると告げます。そして「知らないものではなく知っているもの」礼拝するようになる、といいました。ここでイエスが語る、知っているものとは何でしょう？

**神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。**ヨハネ4:24

まず、神が霊であることを知ること、悟ることが必要だといっています。わたしたちは神をぼんやりとではありますが人格をもった神、人間と似ている容姿を思い浮かべていることがあります。イエスは「神は霊」だとハッキリと告げています。そして礼拝者は「霊と真理」をもって礼拝せよといえます。霊と真理とはなにか、サマリアの女がイエスのと対話で悟った内容はこうでした。

**わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。**ヨハネ

4:14

永遠の命=救いのことです。イエスの与える水は救いに至る水だといっています。そしてイエスの水は「受けとめた人のなかで泉となりわき出る」といいます。つまりイエスのことばを自分の霊で受け止め、イエスのことばを泉のように自分の中から、自分自身の身体からわき出るようにすること、それが「霊と真理」の内容です。

イエスがたとえで語られた、善きサマリア人（ルカ 10.30-36）が強盗に襲われた人を見捨てず、おもわず駆け寄り助けたことが「霊と真理」の具体的な例です。

サマリアの女はイエスのことばを信じ、イエスがキリストだと悟り、サマリアの村に触れ回ります。それを聞いた村人も彼女のことばを信じイエスに滞在を頼みます。サマリアの村の2日間でイエスの言葉を聞いた多くの人イエスを信じました。

サマリアの村でおきた「イエスを信じる」「本当に世の救い主」であることがわかることは救いへと続きます。まず信じること、本当に信じることから始まり、信じた人が「永遠の命に至る水がわき出る」へと導かれるのです。

-----